

平成 30 年北海道胆振東部地震における感染予防 ダイジェスト版 被災地・避難所で生活する際の感染予防

2018 年 9 月 9 日

<食事と衛生>



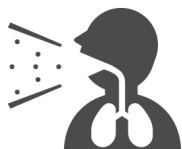
- ・ 暑いところに放置された食事(おにぎり、おかず)や、中まで火がよく通っていない肉などを食べない。
- ・ 食事の前には石鹼と流水で手を洗う(擦り込み式アルコール手指消毒薬がある場合には使用する)。

<トイレと感染症>



- ・ トイレを使用した後は石鹼と流水で手を洗う。(擦り込み式アルコール手指消毒薬がある場合は使用する)。
- ・ タオルの貸し借りは避ける。

<風邪・感冒など>



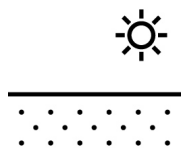
- ・ 咳などがある時にはマスクをする。
- ・ とっさのくしゃみの時はティッシュや肘の内側で口と鼻を覆う。
- ・ 鼻水や痰が手に付いた時は手を洗う。
- ・ 目の充血などがある時には、タオルなどの貸し借りを避け、こまめに石鹼と流水で手を洗う。
- ・ 高熱、息苦しさ、意識障害などがある時は医療機関を受診する。

<ワクチン接種>



- ・ 麻疹・風疹、水痘、おたふくかぜ、破傷風、百日咳などの予防接種を受ける。
- ・ 定期予防接種をきちんと受ける。

<暑さ・ストレス・熱中症>



- ・ こまめに水分と適度な塩分を補給し、できるだけ涼しい場所で過ごす。
- ・ めまいや顔のほてり、頭痛、筋肉のけいれん、だるさ、大量に汗をかくなどの症状があるときは早めに医療機関に相談する。

瓦礫の撤去、復旧復興作業における感染予防

<傷と感染症>



- ・ 作業の際には、丈夫な靴や手袋を履く。
- ・ 傷があるときは流水できれいに洗う。
- ・ 傷口が膿んだ時、赤く腫れて熱感や痛みがある時は、医療機関に相談する。

<土壌や環境への接触と感染症>



- ・ 屋外での作業の際には、長靴やゴム手袋などを着用する。
- ・ 埃が舞う場合は防塵効果のあるマスクを着用する。
- ・ キツネや野犬、その糞に触れない。餌付けをおこなわない
- ・ 湧き水を飲まない。自生の果実・山菜などはよく洗う
- ・ 生ゴミを放置しない

<ダニと感染症>



- ・ 屋外での作業の際には、皮膚の露出面を少なくし、虫よけスプレーを用いる。
- ・ ダニに刺されたら、無理に取り除こうとせず、医療機関で取り除いてもらう。
- ・ 屋外での作業後、発熱などの症状が出た場合には、医療機関に相談する。

被災地へ支援に行く方に留意いただきたいこと

○体調が悪い場合には無理をしない。

特に、発熱、咳、発疹、下痢などの感染症が疑われる症状がある時には、体調を整えてから現地に向かう。

○必要に応じワクチンを接種しておく

麻疹・風疹：2回のワクチン接種を終了しておく。

破傷風：50歳以上の方は、破傷風に対する免疫を持たないことが多いため、創傷を負う可能性が予想される時には、事前に破傷風トキソイドを接種する。

一般社団法人日本環境感染学会理事長 賀来満夫
同リスクコミュニケーション委員会